

令和2年度（2020年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和2年7月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	雨竜町	外山 謙一	無職	農村景観保全・自然再生活動等	土地連	令和4年3月31日	
2	空知	沼田町	野 道夫	無職	自然再生活動等	町長	令和3年3月31日	
3	空知	岩見沢市	高柳 広幹	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
4	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和3年3月31日	
5	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和3年3月31日	
7	後志	喜茂別町	遠城 諭史	会社員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
8	後志	喜茂別町	坂爪 洋介	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
9	後志	喜茂別町	白川 博順	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
10	後志	蘭越町	松山 廣	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
11	胆振	厚真町	荒城 敏文	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
12	胆振	洞爺湖町	青山 伸子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	新規
13	日高	浦河町	中村 勇市	農業	環境整備・農作業体験	土地連	令和3年3月31日	
14	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
15	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
16	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
17	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
18	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和3年3月31日	
19	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
20	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和3年3月31日	
21	渡島	八雲町	元山 美芳	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
22	渡島	七飯町	田中 いずみ	無職	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
23	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
24	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和4年3月31日	
25	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和5年3月31日	
26	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
27	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
28	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和5年3月31日	
29	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
30	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
31	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和5年3月31日	
32	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
33	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
34	上川	鷹栖町	池田 修也	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
35	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
36	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和4年3月31日	
37	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
38	留萌	苫前町	高瀬 徹	団体職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	新規
39	留萌	苫前町	福田 怜也	団体職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	新規
40	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和5年3月31日	
41	宗谷	豊富町	尾崎 滋	団体職員	都市農村交流等	町長	令和5年3月31日	
42	林-ㇿ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和3年3月31日	
43	林-ㇿ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
44	林-ㇿ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
45	林-ㇿ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
46	林-ㇿ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
47	林-ㇿ	興部町	八木 実央	地方公務員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
48	林-ㇿ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
49	林-ㇿ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
50	林-ㇿ	美幌町	午来 博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	新規
51	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和4年3月31日	
52	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
53	十勝	本別町	岡崎 慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
54	十勝	本別町	谷口 まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
55	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和4年3月31日	
56	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和5年3月31日	
57	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
58	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
59	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
60	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	

令和2年度（2020年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和2年7月 現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性					
道央17名	空知5名	△外山 謙一 (雨竜町)	日高5名	中村 勇市 (浦河町)		
		野 道夫 (沼田町)		中川 貢 (浦河町)		
	後志4名	高柳 広幹 (岩見沢市)	胆振2名	以西 明美 (浦河町)		
		小西 泰子 (岩見沢市)		佐藤 剛 (新冠町)		
		金丸 大輔 (栗山町)	石狩1名	△田中 義光 (日高町)		
		遠城 諭史 (喜茂別町)		◎阿岸 哲広 (石狩市)		
		坂爪 洋介 (喜茂別町)		荒城 敏文 (厚真町)		
		白川 博順 (喜茂別町)		青山 伸子 (洞爺湖町)		
		松山 廣 (蘭越町)				
道南9名	渡島5名	佐藤 暁樹 (知内町)	檜山4名	佐々木 俊司 (厚沢部町)		
		笠松 悦子 (知内町)		小笠原 明彦 (江差町)		
		○小林 石男 (八雲町)		△吉見 俊彦 (上ノ国町)		
		元山 美芳 (八雲町)		富樫 一仁 (せたな町)		
		田中いずみ (七飯町)				
道北13名	上川9名	中村 雅義 (幌加内町)	留萌4名	長澤 政之 (小平町)		
		○岩永かずえ (南富良野町)		高野 幸子 (小平町)		
		鷹嘴 充子 (南富良野町)		高瀬 徹 (苫前町)		
		△小野寺 孝一 (当麻町)		福田 怜也 (苫前町)		
				佐藤 績 (上川町)	宗谷2名	菊池 工 (稚内市)
				辰巳 明美 (上川町)		尾崎 滋 (豊富町)
				久保 照美 (中富良野町)		
				池田 修也 (鷹栖町)		
		中江 正博 (鷹栖町)				
道東19名	林-ㇿ9名	△馬淵 陽子 (北見市)	十勝4名	伊藤 由紀子 (帯広市)		
		黒須 倫子 (北見市)		△高橋 貴子 (鹿追町)		
		久保美恵子 (湧別町)		岡崎 慶太 (本別町)		
		柳谷亜紀子 (清里町)		谷口 まどか (本別町)		
				仲元寺恒平 (興部町)	釧路3名	○服部 政人 (鶴居村)
				八木 実央 (興部町)		水本 梨佳 (鶴居村)
				石井 恭子 (雄武町)		高橋 美佐子 (厚岸町)
				佐野 多希子 (津別町)	根室3名	水沼 和子 (別海町)
				午来 博 (美幌町)		渡邊 広美 (別海町)
						尾形 好枝 (別海町)

計60名

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画 (案)

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和2年度)

計画内容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

北海道

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。</p> <p>特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件に恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、農村らしいコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域の自立した持続的な取組には至っていない状況にある。</p>
事業実施の基本方針	<p>農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。</p> <p>また、こうした活動の事例を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、地域づくりに貢献できるように様々な研修機会の提供により、その人材の育成に努める。</p> <p>これらの取組の成果については、全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、全道に普及する。</p>
計画後の目指す姿	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かし、自立意識を持った住民の活動が持続化することにより、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮させ、中山間地域の活性化を図る。</p>

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容	総事業費					
						令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水第3-2-(1) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた3年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を5ヶ年で10地区程度実施する。						
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水第3-2-(2) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を5ヶ年で20回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、5ヶ年で10人程度新たに指導員を委嘱する。						
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、5ヶ年で10回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、5ヶ年で10回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。						
						令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中山間ふるさと・水と土保全対策事業費（ふる水と土基金）		計画事業費		13,630						
		(実績額)								
中山間ふるさと・水と土保全推進事業費（棚田基金）		計画事業費		780						
		(実績額)								

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数	10地区							
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数	20回							
		指導員の委嘱人数	10人							
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数	10回							
		情報誌の発行回数	10回							

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
①	地域活動支援事業		
②	人材育成		
③	推進事業		

令和 2 年度（2020 年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区（3 地区、括弧は年次）
根室市厚床地区（3）、上ノ国町上ノ国地区（3）、由仁町由仁地区（2）
- (2) 住民意識醸成地区
本別町本別地区、オホーツク広域、新規地区（2 地区程度を掘り起こし）

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱
- (2) 全国研修（未定）→ 今年度は中止
- (3) 地域づくり研修会（2月16日 札幌市）
- (4) 現地研修（道北 7月15～16日）→ 今年度は中止
（道南 10月22日～23日）
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（7月9日、2月16日 札幌市）
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会（2月17日 札幌市）
- (7) 振興局・ブロック別会議
 - ① 道央ブロック 日時未定 空知管内でディスカッション中心
 - ② 道南ブロック 9月中旬又は11月上旬 七飯町 講演中心
 - ③ 道北ブロック 9月2日 旭川市 指導員活動報告中心
 - ④ 道東ブロック 10月末頃 場所・内容は検討中
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回（8月、12月）
- (9) メルマガ「里づくり通信」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 2回（7月21日、3月）
- (2) 委員と活動地区との意見交換
（厚床地区、上ノ国地区、由仁地区、本別地区、オホーツク広域）
- (3) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (4) 啓発普及
「新・田舎人」（104～107号）の配布

令和2年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 事業スケジュール

R2. 7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会				第1回								第2回	
委員による意見交換会					↓		厚床地区 由仁地区 上ノ国地区	本別地区 オホーツク 広域			↑		
指導員 関連事業				第1回 幹事会 (札幌) 現地研修 (道北・留萌) 7/15~16 ※中止	振興局・ ブロック別 会議 (道央・空知) ※時期未定	振興局・ ブロック別 会議 (道北・旭川) 9/2(水)	現地研修 (道南・渡島) 10/22~23	振興局・ ブロック別 会議 (道東) ※時期未定			第2回 幹事会 (札幌) 2/16(火)	地域づくり 研修会 (札幌) 2/16(火)	指導員会 (札幌) 2/17(水)
その他				農水省ふる 水基金全国 担当者会議 ※未定	情報誌 里づくり 21号	全国研修 (東京) ※中止			情報誌 里づくり 22号				
					↑		メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)					↑	

令和2年度(2020年度)中山間ふるさと・水と土保全対策事業予算

(単位:千円)

	区 分	分 類	R2予算額 (当初)	R1予算額 (当初)	R1実績額
	地域支援活動 事業費	厚床地区	1,940	2,180	791
		上ノ国地区	515	245	233
		由仁地区	547	635	538
		本別地区	455	—	—
		新規採択地区	2,302	1,975	—
	小 計		5,759	5,035	1,562
2	研修事業費	地域づくり研修会、指導員会	1,917	2,902	1,753
		現地研修	3,110	1,917	1,061
		情報誌等	362	342	144
		全国研修会	477	480	714
		振興局・ブロック別会議	1,237	1,878	643
	小 計		7,103	7,519	4,316
3	推進事業費	委員会	482	472	99
		現地調査等	716	716	524
		啓発活動	350	250	318
	小 計		1,548	1,438	941
合 計			14,410	13,992	6,819

地域活動支援事業

令和元年度（2019年度）事業実績及び
令和2年度（2020年度）活動計画

別記様式第4号
活動計画

団体名	厚床地域農村再生プロジェクト プロジェクトチーム	市町村名	根室市	地区名	厚床																	
めざす姿	地域資源を活かし、農商工連携を促進しながら、都市と地域の交流拠点づくりに取り組み、地域の活性化を図る																					
活動の方向	No.	活動の内容		目標(数値・定性)		解決すべき課題																
	①	<ul style="list-style-type: none"> 厚床地域ビジョン作成に関する取り組み 地域間及び世代間交流人口の増加 地域資源(魅力)の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ビジョン作成 防災キャンプ開催 あつご農園開設 自然学習会開催 フットパス整備 交流会開催 視察研修 	<ul style="list-style-type: none"> 地域マップ作成 PR動画作成 ワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域への活動内容の周知及び理解を得る 農繁期の活動体制 関係機関との連携強化 役割分担の確立 																	
②	◇活動内容の地域への周知及び理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用した情報発信 ワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用した情報発信 ワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担の確立 																		
3年間の活動プロセス	活動事項	関連No.	平成30年度		令和元年度		令和2年度		最終目標	適用事業												
		内容	内	内容	内	内容	内	内容			年度目標	年度目標	年度目標									
	①																					
	①	防災キャンプ	174	1回	防災キャンプ	920	1回	防災合宿	900	1回	地域ビジョン作成	390										
	①				あつご農園	400		あつご農園	200													
	①							自然学習(果箱作り、パードウォッチング)	50	2回												
	①	フットパスコース整備	41		フットパスコース整備	210		フットパス看板設置	210													
	①	交流会(パークゴルフ)	0	1回	交流会(パークゴルフ)	0	1回	交流会(パークゴルフ、百人一首、食事会など)	10	2回												
	①				視察研修	260		視察研修	180													
	①							地域マップ作成														
①							PR動画制作															
②	ワークショップ	405	4回	ワークショップ	390	4回	ワークショップ	4回														
②	SNS等での情報発信	-	随時	SNS等での情報発信	-	随時	SNS等での情報発信	-	随時													
計		620			2,180			1,940														
	専修大学	教授 泉 留維 (フットパス)																				
	北海道教育大学釧路校	准教授 宮前 耕史 (通乗合宿)																				

活動の評価・検証結果

項目	内容	
事業実施年度	令和元年度	
総合振興局等名	根室振興局	
活動地区名	厚床地区	
活動団体名	厚床地域再生プロジェクトチーム	
活動成果における当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催(4回) ・あつとこ農園 ・フットパス整備 ・厚床防災合宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・8/22、11/24～25、3/19に開催(3回) ・地域住民が野菜等を共同で栽培、収穫することでふれあいの場を作る。 ・根室の雄大な自然環境の中に人が歩ける程度の道を作る ・防災をテーマとした体験活動により防災知識の習得と多世代間交流の促進を図る
活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・5/25に1回目のワークショップを開催予定だったが、会場が葬儀会場として使用されたため開催できなかった。 ・ビニルハウス内の作物は順調に育ったが、ハウス外のにんじんは鹿に食べられ、収穫できなかった。 ・フットパス整備の作業員として、神奈川県から専修大学生がゼミの一環として作業に携わっている。本年度は天候が悪かったため、作業ができない日が続いた。 ・防災合宿への地域住民の参加が少なかった。地元へのPRが足りなかった。 ・視察研修は、メンバーのスケジュールが合わず、実施することができなかった。 	
次年度の活動方向(活動の改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・あつとこ農園で収穫された作物を、防災合宿等で振る舞う。(今年度はじゃがいものみだった。) ・今までは土日開催の防災合宿を平日開催とし、小学生が合宿場所から通学しながら宿泊する方法での開催予定。 	
活動状況写真(別添可)	別添。	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・厚床防災合宿は、教育大釧路校の5人(うち1名は厚床出身者)が実施内容を決め、進行することができたことから、地域住民が主体となった活動の下地ができつつあると思われる。 	

活動の状況（写真・メモ）

ワークショップ



あっとこ農園



畑整備状況



ビニルハウス設置



作物生育状況

フットパス整備



実施前打合せ



現地確認①



現地確認②

活動の状況（写真・メモ）

厚床防災合宿



アイスブレイク（自己紹介）



なまずの学校



夕食準備①



夕食準備②



夕食



お風呂（別海町郊楽苑へ）



防災絵本読み聞かせ



ダンボールベッド作成



ラジオ体操



朝食準備



朝食



心肺蘇生の講習①



心肺蘇生の講習②



防災運動会



閉会式

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	令和2年度			
総合振興局等名	根室振興局			
活動地区名	厚床	活動団体名	厚床地域農村再生プロジェクト プロジェクトチーム	
目的(ねらい)	項目(費用)	内容	金額(円)	積算根拠
地域ビジョン作成に向けた地域住民の意識醸成	報償費	ワークショップ	160,000	◆報償費
	旅費			10,000円*4hr*4回
			230,000	◆旅費(札幌～根室)
				航空機,日帰り*4回
		小計	390,000	
地域ビジョン作成に向けた地域拠点の再確認 地域間及び世代間交流	旅費	防災合宿	350,000	◆旅費(札幌～根室)
	旅費			航空機,3泊4日*5人
			100,000	◆旅費(釧路～根室)
	需用費			列車,3泊4日*5人
			250,000	◆需用費
				食材、資材など
	使用料及び賃借料			200,000
			バス	
		小計	900,000	
コース整備を通じて、地域資源の再認識及び地域間交流	需用費	フットパスコース整備	110,000	◆需用費
	使用料及び賃借料			草刈機燃料代 10,000円
				看板設置 100,000円
			100,000	◆使用料
			バス	
		小計	210,000	
地域間及び世代間交流	需用費	あっとこ農園	200,000	◆需用費
				資材など
		小計	200,000	
自然学習を通じて、地域資源の再認識及び地域間交流	需用費	自然学習会	50,000	◆需用費
				資材など
		小計	50,000	
地域間及び世代間交流	使用料及び賃借料	交流会	10,000	◆使用料
				道具レンタル代
		小計	10,000	
地域づくり活動の事例視察	報償費	視察研修	60,000	◆報償費
	使用料及び賃借料			14,000円*4hr
			120,000	◆使用料
				バス
		小計	180,000	

目的(ねらい)	項目(費用)	内容	金額(円)	積算根拠
地域ビジョンの作成	委託料	地域ビジョン作成 地域マップ作成	0	
		小計	0	
PR動画の作成	委託料	PR動画制作	0	
		小計	0	
合計			1,940,000	
			220,000	報償費
			680,000	旅費
			610,000	需用費
			0	役務費
			0	委託料
			430,000	使用料及び賃借料
費目内訳			1,940,000	

別記様式第4号

活動計画

団体名		市町村名		上ノ国町		地区名		上ノ国	
めざす姿		<p>・「絹さやえんどう」を活用して、上ノ国町の「食」の魅力を地域内外に発信し、また地産地消を促進することで地域内経済を活発にして地域振興、産地の維持を図る。</p>							
活 動 の 方 向	No	活動の内容		目標(数値・定性)		解決すべき課題			
	①	町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める		<ul style="list-style-type: none"> ・食育イベントの開催(年1回) ・「絹さやえんどう」に関係した情報の発信(随時) 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動に必要な絹さやえんどうの確保。 ・絹さやえんどう消費の行事故。 ・町民の「絹さやえんどう」に対する十分な理解。 			
	②	地元料理店と連携し「絹さやえんどう料理」を開発、定着を図る		<ul style="list-style-type: none"> ・「絹さやえんどう料理」の開発 ・「絹さやえんどう料理」の定番メニュー化 		<ul style="list-style-type: none"> ・試作、定番メニュー化に必要な絹さやえんどうの確保。 ・地元料理店との「絹さやえんどう料理」の開発、郷土料理化。 ・「絹さやえんどう料理」を町民に対し提供する時期の検討。 			
	③	活動体制を強化する		<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告会の開催(年1回) 		<ul style="list-style-type: none"> ・生産者に対し「絹さやえんどう」による地域食文化の充実、地産地消による地域循環経済についての理解。 			
	④	「絹さやえんどう」地域内流通体制を構築する		<ul style="list-style-type: none"> ・「絹さやえんどう」の販売場所の確保 		<ul style="list-style-type: none"> ・地区内販売用「絹さやえんどう」の確保、集荷体制。 ・販売場所の検討。 ・販売単価の設定。 			

3年間の活動プログラム	活動事項	関連No	平成30年度			令和元年度			令和2年度			最終目標	適用事業																	
			内容	予算額 千円	年度目標	内容	予算額 千円	年度目標	内容	予算額 千円	年度目標																			
	町民向けの食育活動	①	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	62.71	1回/年 (2月)	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	34.71	1回/年 (2月)	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	34.71	1回/年 (2月)	町民が「上ノ国＝絹さやえんどう産地」であることの理解																		
			上ノ国産サヤエンドウのPR	2,418	2回/年	上ノ国産サヤエンドウのPR	90	1回/年 (11月)	上ノ国産サヤエンドウのPR	370	2回/年 (8-11月)																			
			「絹さやえんどう料理」の開発	0	2回/年 (10月)	地元学校とのさやえんどう料理検討会	60	1回/年 (12月)	地元学校とのさやえんどう利用連携活動	50	3回/年 (10-11月)																			
			さやえんどうスイーツの開発	0	2回/年	「絹さやえんどう料理」の開発	60	3回/年 (8-9月)	「絹さやえんどう料理」の開発	60	3回/年 (6-10月)																			
	活動体制の強化	③	上ノ国サヤエンドウ料理検討会の開催	235.08	1回/年 (3月)							「絹さやえんどう料理」の郷土料理化	中山間ふるさと・水と土保全対策事業(地域活動支援事業)																	
	「絹さやえんどう」地域内販売体制の構築	④											持続性のある活動体制の確立																	
	計			300			245			515																				
<table border="1"> <tr> <td>代表</td> <td>斉藤 寿</td> <td>連絡先</td> <td>連絡先</td> </tr> <tr> <td>農林課農業林業グループ主査</td> <td>石山 雄大</td> <td>連絡先</td> <td>0139-55-2311</td> </tr> <tr> <td>生産施設課調査役</td> <td>出口 秀樹</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>広域主査(高付加価値化)</td> <td>深尾 伸一 (作物(稲))</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>													代表	斉藤 寿	連絡先	連絡先	農林課農業林業グループ主査	石山 雄大	連絡先	0139-55-2311	生産施設課調査役	出口 秀樹			広域主査(高付加価値化)	深尾 伸一 (作物(稲))				
代表	斉藤 寿	連絡先	連絡先																											
農林課農業林業グループ主査	石山 雄大	連絡先	0139-55-2311																											
生産施設課調査役	出口 秀樹																													
広域主査(高付加価値化)	深尾 伸一 (作物(稲))																													
<table border="1"> <tr> <td>代表</td> <td>斉藤 寿</td> <td>連絡先</td> <td>連絡先</td> </tr> <tr> <td>農林課農業林業グループ主査</td> <td>石山 雄大</td> <td>連絡先</td> <td>0139-55-2311</td> </tr> <tr> <td>生産施設課調査役</td> <td>出口 秀樹</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>広域主査(高付加価値化)</td> <td>深尾 伸一 (作物(稲))</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>													代表	斉藤 寿	連絡先	連絡先	農林課農業林業グループ主査	石山 雄大	連絡先	0139-55-2311	生産施設課調査役	出口 秀樹			広域主査(高付加価値化)	深尾 伸一 (作物(稲))				
代表	斉藤 寿	連絡先	連絡先																											
農林課農業林業グループ主査	石山 雄大	連絡先	0139-55-2311																											
生産施設課調査役	出口 秀樹																													
広域主査(高付加価値化)	深尾 伸一 (作物(稲))																													

活動の評価・検証結果

項目	内容	
事業実施年度	令和元年度	
総合振興局等名	檜山振興局	
活動地区名	上ノ国	
活動団体名	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班	
活動成果における当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	<p>当初は「上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催」「上ノ国産サヤエンドウのPR」「地元学校とのさやえんどう料理検討会」「『絹さやえんどう料理』の開発」。変更は、「上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催」は実施できなかった。</p>	<p>「上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催」本年度はコロナウイルス対策の関係で中止した。</p> <p>「上ノ国産サヤエンドウのPR」+「『絹さやえんどう料理』の開発」</p> <p>①JA新はこだて広報誌「えすぼわーる」5月、6月号にさやえんどう利活用の取り組みを紹介した。</p> <p>②7/20、日頃取組について情報交換をしている函館の調理製菓専門学校イベントで、さやえんどう料理レシピ集を参考に作られた料理が披露された。</p> <p>③10/6、上ノ国産業祭りで、産地PRのためさやえんどうにレシピ集を配布した。また商工会と協議し、農業者には一般的で、手早くできる「ゆでさや(さっと茹でたさやえんどう。これに味噌とマヨネーズを混ぜたものを付ける)」を来場者に提供した。試食者の反応は良かった。</p> <p>④「農家の友」でさやえんどう利活用の取組を紹介した。</p> <p>⑤広報やHP等で紹介することを目的に地元料理店と連携し、さやえんどうレシピを作成した。また、PRのため料理集を増版した。</p> <p>「地元学校とのさやえんどう料理検討会」+「『絹さやえんどう料理』の開発」</p> <p>①12/12、地元高校で「お年寄りのための『さやえんどう料理』試食会」が開催された。開催にあたり、社会福祉協議会の協力で、老人クラブ連合会会長と日程調整を実施した。試作は2回行われ、サヤエンドウ生産組合、町役場、商工会、社会福祉協議会、観光協会、振興局、地元料理店、和菓子屋が参加した。</p> <p>当日は、各老人会より5名の会長、上ノ国町長、振興局長、社会福祉協議会事務局長計8名が出席し、「さやサバ飯」「具だくさんみそ汁」「神さやのごまみそあえ」「はんぺんとエビの焼き物」「里芋の煮物」「さやムース」を試食した。どの料理も高評価だった。この様子は新聞社にも取り上げられ、TVでも放映された。</p> <p>②昨年より試作を繰り返してきた「さやえんどう餡」の大福(商品名は「きぬさやだいふく」)が、道の駅「上ノ国もんじゅ」で発売された。発売初日は完売し、以降も売れ行きは好調だった。</p>

活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・企画毎のさやえんどう確保。 ・活動の継続性強化。 ・地元の人が参画できる機会の増加。
次年度の活動方向 (活動の改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上ノ国町産業祭りでのさやえんどうPR ・さやえんどう料理による食育活動 ・地元料理店、和菓子店との連携活動
活動状況写真 (別添可)	<div data-bbox="454 448 1077 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">JA新はこだて広報誌「えすぽわーる」で紹介</div> <div data-bbox="454 521 922 840" style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <div data-bbox="454 855 1002 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">調理製菓専門学校でのさやえんどうPR</div> <div data-bbox="454 925 901 1232" style="display: flex;">   </div> <div data-bbox="454 1249 683 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">上ノ国産業祭り</div> <div data-bbox="454 1328 885 1646" style="text-align: center;">  </div>

上ノ国高校との連携活動



きぬさやだいふく

新商品 上ノ国町は絹さやえんどうの名産地です。

きぬさやだいふく

上ノ国町の基幹作物である絹さやえんどうを何とか和菓子に出来ないかと
上ノ国町絹さや生産者と菓処あまのがわがタックを組み開発したのがこの大福です。
試行錯誤を繰り返し、満を持して商品化しました。
絹さやの風味と生クリームがマッチし癖になる味です。ぜひ御賞味あれ。



総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	令和2年度			
総合振興局等名	檜山振興局			
活動地区名	上ノ国	活動団体名	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班	
目的(ねらい)	項目(費目)	内 容	金 額	積 算 根 拠
町民向けの食育活動	需用費	上ノ国産サヤエンドウのPR	370,000	消耗品費・食材費 (H31.3.19美里分参考 150人を想定して)、レ シピ集500部
	需用費		30,000	消耗品費・食材費 (H31.3.19美里分参考)
	使用料及び賃借料	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	4,710	1,570円×3h ジョイ・じょぐら(は まる3、調理室)
	需用費	地元学校とのさやえん どう利活用連携活動	50,000	消耗品費・食材費 (H31.3.19美里分参考 8班につき2品×3回)
		小 計	454,710	
「絹さやえんどう料理」の開発	需用費	料理人との連携し、さ やえんどう料理の開発	60,000	1人当材料費2000円 (参考ちやお9品分) ×10名×3回
		小 計	60,000	
合 計				
費 目 計		08_報償費	0	
		09_旅費	0	
		11_需用費	510,000	
		12_役務費	0	
		13_委託料	0	
		14_使用料及び賃借料	4,710	
			514,710	

別記様式第4号

活動計画

団体名	WEAVE	市町村名	由仁町	地区名	由仁地区							
めざす姿	<p>由仁町は、札幌圏に比較的近いという立地条件も影響し、過疎化・高齢化が進み、農村地域としてのコミュニティの脆弱化が深刻で、地域の活力が低下している。このような中、町内には町外から農家へ嫁に来た女性が多く、この女性たちの間から「町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことが分からず不安なので、もっと知りたい。」「などの要望が上がり、普及センターが仲介役となって若手女性の会『WEAVE』(編む、織るという意味)が平成25年3月に設立された。会の目的としては、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで、地域の活性化に貢献することである。農村地域にとって、女性たちの存在は活性化のキーとなる。今後、この『WEAVE』の活動を促進することにより、高齢者などが蓄積している食に関する伝統技術を継承し、イベントなどを通じて町内外の活発な交流を進めることで、『WEAVE』のメンバーを含め多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、活き活きと農村生活を送ることができるようになる。また、乾燥野菜の販売などを通じて、『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、このような仲間の拡大を促進することで、由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。</p>											
活動の方向	NO	活動の内容	目標(数値・定性)	解決すべき課題								
①	①	学習・グループ活動事業 町外から嫁に来た女性が、地域の魅力や、地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。また、地域の魅力を発信していく。	1人/年 1回/年 10回/年	<ul style="list-style-type: none"> 新規会員の確保 地域の伝統的な農産物加工技術の習得 地域の魅力発信のための情報伝達技術の習得 								
	②	乾燥野菜加工販売事業 乾燥野菜の加工及び試験販売を行う。製造工程の整備、効率化及び衛生管理を向上する。また、販売拡大のため、レシピの開発および商品の改良、販売PR方法の改善を行う。	70袋/年 完成品1	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な栽培・加工による商品の生産 製造工程の効率化および衛生管理の向上 商品の改良 レシピの開発、販売PR用レシピの作成 								
	③	交流事業 野菜販売を通して消費者交流をすすめる。魅力あふれる地域づくりにつながるようなイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。	4回/年 100人/回	<ul style="list-style-type: none"> 野菜的な実施 クリスマスイベント来場者数 クリスマスイベント販売の拡充 野菜の特徴や調理に関する知識の向上 イベントの効果的なPRと開催内容の充実 								
3年間の活動プロセス	関連NO	年度目標	令和2年度	令和3年度	最終目標	適用事業						
学習・グループ活動事業	①②	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	170	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	活動の活性化と知識・スキルの習得、農産物加工技術習得		
	①②	農産物加工実習	30	1回/年開催	20	1回/年開催	農産物加工実習	20	1回/年開催			
	②	製造にかかる資材費	85	150袋/年製造	60	70袋/年製造	製造にかかる資材費	60	70袋/年製造	地域特産品として生産		
	②	販売促進にかかる資材費	90	名刺・ショップカード800枚エプロン20枚	45	レジ金庫商品表示シール	販売促進にかかる資材費	45	300枚	シール・バッグ・紙袋	体制を整え本格販売を開始する	
	②③	販売促進にかかる出店料・運搬料	60	クラシエ2回	35	愛食フェア1回	販売促進にかかる出店料・運搬料	35	愛食フェア1回			
	②	レシピ開発・作成	30	レシピ集300部								
	②③	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	30	ポスター40部 チラシ200部	45	ポスター40部 パンフレット150部 新聞折込2,000部	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	55	ポスター40部 チラシ200部 新聞折込2,000部	地域のイベントとして定着させ、消費者交流の場とする		
	計			495		465			475			
関係者等	由仁町産業振興課農政担当 主査 関澤 和之 (連絡先 0123-83-2114)											

活動の評価・検証結果

項目	内容	
事業実施年度	平成31年度	
総合振興局等名	空知総合振興局	
活動地区名	夕張郡由仁町	
活動団体名	WEAVE	
活動成果における当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 ○乾燥野菜加工販売事業 ○交流事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○札幌市地下歩行空間において野菜直売および乾燥野菜販売活動を2回行った(7/18、9/11)。 <ul style="list-style-type: none"> ・北のめぐみ愛食フェア出店料 ・赤帽配送委託料 ○野菜に関する情勢調査、および乾燥野菜の製造販売をテーマに先進地視察研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌みらい中央青果(株) 鈴木取締役より青果市場の原理や機能、求められる野菜などについて説明を受けた。 ・Ambitious Farm(株) 柏村代表取締役より野菜直売の取り組み、GAPの導入などについて説明を受けた。 ・江別製粉(株) 山本専務取締役より小麦粉の製粉工程、小麦の国内情勢などについて説明を受けた。 ○乾燥野菜製造に係るHACCPの勉強会を実施した。 ○味噌加工実習を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・講師料 ○乾燥野菜は、65袋を製造・販売した。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥野菜製造用フードライヤーの購入 ○由仁町内でクリスマスパーティーを実施した。児童、保護者約100名の参加があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター・パンフレットの印刷、装飾品の購入
活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜栽培・販売の知識・技術向上のための学習活動 ○乾燥野菜加工販売事業 <ul style="list-style-type: none"> ・製造工程の効率化 ・収益性の改善 ・衛生管理方法の確立 ・販売PR方法の改善 ○交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの負担を軽減するイベント準備方法の改善 ・参加者を拡大するためのPR方法の検討 ・イベント内容の充実 	

<p>次年度の活動方向(活動の改善点等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・直売イベントへの参加(7月～12月、計4回) ・インスタグラムを利用した由仁町農業・農村の魅力発信 ・新規会員の確保 ○乾燥野菜加工販売事業 <ul style="list-style-type: none"> ・製造マニュアルの完成 ・製造工程の効率化 ・収益性の改善検討 ○交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・12月にクリスマスパーティーを実施
<p>活動状況写真(別添可)</p>	<p>○札幌市地下歩行空間での直売イベント「北の恵み愛食フェア」に出店</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>来客多数で野菜は完売した。由仁町のパンフレットとうちわを配布した。</p> <p>○先進地視察研修で札幌中央卸売市場、Ambitious Farm、江別製粉を訪問 <札幌中央卸売市場(札幌みらい中央青果)></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>卸売市場のしくみや役割、求められる野菜について研修した。 <Ambitious Farm></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>野菜直売の取り組み、GAPの導入とその効果について学んだ。</p>

○味噌造り実習



地域の味噌製造農家を講師に味噌造りについて実習した。

○クリスマスパーティー



多数の親子連れが参加、ゲームやイベントを実施したほか、乾燥野菜を利用したスープ、炊き込みご飯の販売も行った。

○HACCP 勉強会



HACCP の考え方を取り入れた衛生管理を学び、乾燥野菜製造マニュアルの修正点について検討するワークショップを行った。

総合振興局等から見た活動地区および活動団体の状況

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	令和2年度			
総合振興局等名	空知総合振興局空知農業改良普及センター空知南東部支所			
活動地区名	由仁地区	活動団体名	WEAVE	
目的(ねらい)	項目(費目)	内容	金額(円)	積算根拠
①学習・グループ活動事業 町外から嫁に来た女性が、地域の魅力を認識し、地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。	直売・加工・交流に係る勉強会 (使用料) (報償費)	先進的な直売・加工・消費者交流事例の視察及び現地での意見交換を通じて指導・助言を得る。	170,000	バス借り上げ料 150,000 講師謝礼 20,000
	農産物加工実習 (報償費)	実習を通して、豆腐、味噌、漬け物等の地域に根付いた農産物加工技術を身につける。	20,000	講師謝礼
②乾燥野菜加工販売事業 生産した野菜の有効活用と由仁町の特産品として開発した乾燥野菜の試験販売に取り組むとともに、商品の改善や販売促進のための取り組みを行う。	乾燥野菜製造にかかる資材費 (需用費)	乾燥野菜の製造にかかる資材を購入する。	60,000	食品用ジッパーバック キッチンペーパー 等
	販売促進にかかる資材費 (需用費)	野菜直売、乾燥野菜販売時に使用するシールを印刷する。直売イベント時に使用する資材を購入する。	45,000	商品表示用シール クラフト紙袋
	販売促進にかかる出店料及び運搬 (使用料) (役務費)	直売イベントに参加し、乾燥野菜の販売および由仁町のPRと消費者交流を行う。	35,000	「北の恵み愛食フェア」出店料 8,000 運搬料一式 27,000
③交流事業 町内外から多くの人に訪れてもらい、消費者との交流や魅力ある地域づくりにつながるイベントとしてクリスマスイベントを開催する。	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット・チラシ作成 (需用費)	クリスマスイベントのPRポスター、パンフレット、新聞折込チラシを作成し、周知を図る。	45,000	ポスター パンフレット 等
	クリスマスイベント装飾費 (需用費)	会場の装飾やイベント運営に使用する看板等を作成する	90,000	色画用紙 等

地域活動支援事業に係る予算要求書（普及センター経費）

事業実施年度	令和2年度			
総合振興局等名	空知総合振興局空知農業改良普及センター空知南東部支所			
活動地区名	由仁地区	活動団体名	WEAVE	
目的(ねらい)	項目(費目)	内容	金額	積算根拠
WEAVE活動支援	資料印刷 (需用費)	活動支援のための資料を印刷する。	25,000	トナー代等
	巡回活動支援 (需用費)	WEAVE会員の栽培指導、活動準備支援、打合せ等の巡回を行う。	55,000	ガソリン代等
	販売促進支援 (旅費)	札幌での直売活動を支援する。	2,000	札幌往復×3回
合計			547,000	
費目内訳			40,000	報償費
			2,000	旅費
			320,000	需用費
			27,000	役務費
			158,000	使用料

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業に係る実施要望調書

総合振興局等名	十勝総合振興局	市町村名	本別町
活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきき未来らぼ
市町村担当者所属・氏名	本別町役場農林課 農政担当主査 小池知巳	関係指導員名	岡崎慶太・谷口まどか
活動地区の現状及び活動団体の活動状況(実績)			
<p>○本別町は、十勝管内東北部に位置する人口約7,000人の町で、かつては林業が盛んであったが、近年は農業及び農畜産物加工を行う工業が基幹産業となっている。農産品では豆類の生産が盛んでマメの町として知られるほか、町の半分以上を山林が占めるなど豊かな自然に恵まれている。</p> <p>○「ほんべつ☆うきき未来らぼ」は、地域の活性化に向けて住民有志による勉強会を開催したことをきっかけに、住民主体の継続的な取り組みを進めるための体制整備が必要ということで、令和元年12月に設置された。</p> <p>今後、幅広く住民の参加を募って、様々な分野において具体的な活動を展開したい。</p>			
活動地区及び活動団体の活動における課題			
<p>○本別町は、他地域よりも先行して少子高齢化が進んでおり、これまでも取り組んでいるスポーツと福祉によるまちづくりに加え、観光の振興や特産物のさらなるブランド化などにより、都市との交流、農商工業の振興、中心市街地・農村地域の活性化などを図ることが必要。</p> <p>○「ほんべつ☆うきき未来らぼ」では、今まで各種団体に属さず地域活動に参加出来ていなかった方々の意見を聞けるような体制を作り、老若男女問わず皆で地域課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こすことが必要。</p>			
地域の活性化に向けた展開方向			
<p>○抽出した課題をそれぞれグループ分けし、連携を図りながら具体的な行動を起こす。</p> <p>○他地域から講師を招き、事例等を紹介頂くことにより、当会メンバーの活動に向けての勉強の機会とする。</p> <p>○今まで各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成することでまちづくり、地域活性化の基盤とする。</p> <p>○具体的な活動内容については、今後、住民参加の勉強会やワークショップを開催し、具体化を図る。</p>			

活動地区(活動団体)に係る概要調書 (令和2年3月現在)

活動地区名	本別町本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ
地区(団体)の主な活動歴			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年10月2日 「農泊」成功事例に学ぶ！農村活性化勉強会員inほんべつ(29名参加) 講演「鶴居村における地域活性化の取り組みについて」、情報提供、意見交換 ・令和元年12月11日 まちづくり勉強会 in HONBETSU2(32名参加) 講演「てしかがえこまち推進協議会の取り組みについて」、意見交換、交流、ワークショップ ・令和2年2月17日 まちづくり勉強会 in HONBETSU3(39名参加) 講演「「おこっぺ街中マルシェの取り組みについて」、情報提供、ワークショップ(グループ討議) 			
代表者の活動歴等			
<p>(岡崎慶太)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年、移動可能な民泊施設「タイニーハウス」のレンタル事業をスタート。本別町の飲食店とコラボして周辺の絶景スポットにタイニーハウスを設置する手ぶらキャンプを提案するなど、町おこしにも積極的に取り組んでいる。 <p>(谷口まどか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年、大阪から本別町に移住。マメのまち本別からマメの魅力を発信、普及するためのプロモーション活動を展開。 			

別記様式第1号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業に係る実施要望調書

総合振興局等名	オホーツク総合振興局	市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町
活動地区名	オホーツク広域	活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議
市町村担当者所属・氏名	美幌町経済部農政グループ みらい農業センター 午来 博	関係指導員名	午来 博
活動地区及び活動団体概要			
<p>オホーツク管内は北海道の北東部に位置し、総面積 10,691 m²、人口約 29 万人の地域である。</p> <p>地域の基幹産業は一次産業であり、農業は麦類を始めとした主要畑作物や玉葱のほか、酪農、肉牛も加えた多様多彩で大規模な営農が営まれており、H29 年度農業算出額は約 1,893 億円である。</p> <p>さらに漁業はオホーツク海沿岸海域を漁場としたホタテ漁やサケ漁が盛んであり、H30 年度漁獲高は 546 億円である。</p> <p>また、観光業も地域経済を支える産業の一つであり、雄大な自然や食、温泉などの優れた観光資源を有し、H30 年度の観光客入込客数は約 885 万人、外国人宿泊客数は約 12 万人である。</p> <p>「オホーツク農村ツーリズム連携会議」は、農村ツーリズム事業に積極的に取り組む、7市町の団体で構成し、各地域の個性や特性を複合的に融合化し、広域連携体制を構築する中で、旅行者の長期滞在化を促進し、さらなる観光客の集客、関係人口・交流人口増加を図り、相互的な地域経済の活性化につなげることを目的として広域連携組織を令和 2 年 3 月に設立した。</p> <p>連携会議の代表者は広域連携体制の提案者である美幌町経済部みらい農業センターの午来所長(美幌町観光まちづくり協議会所属)である。</p> <p>なお、連携会議へ参画する7団体は以下のとおりである。</p> <p>美幌町観光まちづくり協議会(美幌町)、オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会(網走市)、小清水町観光協会(小清水町)、津別町役場・大空町地域雇用創出協議会(大空町)、北見市農泊推進協議会(北見市)、滝上町農泊観光地域づくり協議会(滝上町)</p>			
活動地区及び活動団体の活動の現状と課題			
<p>連携会議に参画する7市町では、すでに H30 年度実績で観光客入込客数が約 579 万人(管内全体の 65%)、外国人宿泊客数が約 5.9 万人(管内全体の 49%)の観光事業における集客があり、さらなる集客により地域の活性化を図るため、産業、自然、特産品や食、文化などを活かして、一次産業や地域資源と観光を融合化した、各種事業に着手しており、モニターツアーや各種ガイドの育成、教育旅行受入事業などを新たに展開している。</p> <p>しかし、各地域単独の取り組みだけでは、地域の複合的な魅力発信力に欠けるとともに、集客力や波及効果も低いことから、地域住民の参加と地域間の連携を深めることで地域全体の体験型・滞在型観光の発展力を高める必要がある。</p>			
地域の活性化に向けた展開方向			
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド人材の発掘・育成や旅行者の受入に協力する農林漁家の拡大などの課題解決に向けた団体間の意見・情報交換や人材交流と優位性のある事業の企画運営力向上等、スキルアップをめざすとともに各々で取り組む事業の連携強化を図ることを基本理念とする。 ・ガイド力の向上をめざす人材育成講習会や教育旅行受入事業の推進方を学ぶ各種講演会等を開催し、事業推進力を高め、“おもてなし力”強化を図る。 ・3年間の実践活動期間内で以下のとおり、活動等を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ○講習会等 地域住民向けガイド育成、教育旅行受入、DMO設立、農地の土壌病害虫汚染対策等に関係する講習会を開催(講師招へい旅費等)。 ○先進地視察 管内外の先進地視察研修会を開催(バス借上げ費用)。 ○環境整備 農村ツーリズム事業受入箇所の環境整備(看板、砂利等の費用)。 ○広域連携地域PR 広域連携による効果的な情報発信手法の検討と試作品の作成。 			